

## 効率化優先が安全を脅かす！

### 「乗務報告アプリ」に対する申入を行う

令和4年7月から運転職場において、業務中に発生した事象に対して、運転士・車掌は業務用スマートフォンの「乗務報告アプリ」で報告が義務づけられました。

#### 組合と一切協議なしでの導入に混乱

組合とは一切の協議を行わないまま導入され、現場では「扱いがわからない」「入力項目が多く時間がかかる」「睡眠時間が無くなる」などの声が上がっています。

#### 指令の仕事を乗務員が・・・？

これまでは事象が発生すると乗務員は乗務報告書を作成し当直に提出、当直がチェックを行い指令に送り、指令がデータ入力をしていたようです。それが今回、乗務報告アプリにより直接データ入力を行うということです。

データ入力はアンケート方式で行いますが、その項目は最も多い事象で70項目に及びます。入力ミスがあると送信できず、70項目のどこにミスがあるか探し再送信します。多くの時間が費やされます。

#### 労外時間で入力で削られる食事、休養時間！

また、入力は労外の時間で行うことが多く、食事時間・休憩時間、さらには寝る時間を削っています。乗務員は交番作成基準などで「行路は16時間以内」「連続乗務時間」「食事時間」「5時間の睡眠時間」が安全・人間の特性のために定められていますが、これらの時間が効率化のしわ寄せで確保できなくなってきました。今回の件はさらに追い打ちをかけるものです。安全上大きな問題です。

#### 申2号申し入れ

1. 乗務報告アプリ導入の目的を明らかにすること。
2. 乗務報告アプリ導入によって、誰が、どのような利益を受けるのか明らかにすること。乗務員は負担の増を被っている。
3. そもそも、乗務報告の必要性が疑われる項目がある。乗務報告書を出すまでもないような報告をさせないこと。
4. 乗務報告アプリ報告はアンケート形式であるが、その項目は47項目から最も多い動物等衝撃では70項目もある。項目を減らすこと。
5. スマートフォン入力のため乗務員室では入力できないため入力にかかる時間のほとんどが労外になる。乗務員は交番作成基準などで「行路は16時間以内」「連続乗務時間」「食事時間」「5時間の睡眠時間」が安全・人間の特性のために求められている。しかし、これらの時間が施策の導入によって脅かされることは看過できない。安全上・人間の特性のための時間を削って労務をさせないこと。
6. 乗務報告アプリ入力は就寝・休養前に行う場合が多い。動物との衝撃などは典型である。睡眠時間を削ってまで報告を優先させることは安全上大きな問題である。直ちにやめること。
7. 最近、様々なことをタブレットや業務用スマートフォンのアプリで行うように指示している。これらの取扱いは日頃から使って慣れていくものではなく、使わないうちに取扱いを日々忘れていくものも多い。訓練の充実を考えること。

## 名古屋地本は8月10日にこの問題について「申2号」を会社に提出！